

登録コード	UAA25500	開講年度	2026				
授業題目	社会学実践演習			担当教員	前田 豊		
				副担当	渡邊 綾		
単位数	2	講義期間	後期	曜日・時限	木曜・4時限		
				授業形態	演習		
信大コンピテンシー	非該当						
(1)授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」				【授業の達成目標】		
	2 6 UAカリ・総人社・人間文化学, 2 5 UAカリ・総人社・人間文化学						
	【人間文化学】思想、歴史、社会、情報、言語、芸術など多種多様な側面を持つ人間文化に関する深い素養と幅広い理解を基盤として、その文化を継承し、柔軟な感性と創造的な論考により専門領域の問題を客観的・学問的に究明し、独自に理論を構築する能力や仮説を検証する能力を有する。				質的社会調査を用いた研究成果を読み解くことができるようになる		
	【人間文化学】人間文化に関する文献・資料を収集・調査し分析・考察する人文学の伝統的な手法を身につけるとともに、他の学問分野の解析手法を併せて修得することによって、複雑多様化する現代社会の課題に柔軟な対応ができる応用力を有する。				自身の専門研究において質的社会調査を展開することができるようになる		
(2)授業の概要	社会学の専門研究における 理論 と 実証 の両輪のうち、実証の柱をなす社会調査法は、質的調査と量的調査に大別される。本授業では質的社会調査に基づく様々な領域社会学の研究成果を通じて、様々な領域社会学の概念や視点を身につけると同時に、そうした研究成果がどのような質的社会調査を通じて生産されているのかを理解し、自身の専門研究において質的社会調査を展開することができるようになることを到達目標とする。社会学における質的社会調査の体系的なテキストである岸他『質的社会調査の方法』を用いて、方法論のレポーターリーについて俯瞰した上で、地域社会学、環境社会学、文化社会学等の領域社会学における代表的な研究成果の内容的読解と、リサーチ・デザインの批判的検討、質的社会調査の様々な方法論について理解を深めるための演習を実施する。						
(3)授業計画	第1回：質的社会調査とは何か 第2回：フィールドワーク、インタビュー法、参与観察法、ドキュメント分析法 第3回：沖縄における基地問題と自治に関するフィールドワーク研究の内容理解 第4回：『交差する辺野古』におけるリサーチ・デザインの批判的検証 第5回：フィールドワークおよび異なる水準のインタビューの方法 [中間レポート] 第6回：ライフヒストリー研究の内容理解 第7回：『同化と他者化』におけるリサーチ・デザインの批判的検証 第8回：生活史調査の方法 [中間レポート] 第9回：広域避難支援に関する参与観察研究の内容理解 第10回：『避難と支援』におけるリサーチ・デザインの批判的検証 第11回：参与観察の方法 [中間レポート] 第12回：「自己」の文化社会学的解明に関するドキュメント分析の内容理解 第13回：『自己啓発の時代』におけるリサーチ・デザインの批判的検証 第14回：ドキュメント分析法 [中間レポート] 第15回：質的社会調査に立脚した受講者のリサーチ・デザインの検討 定期試験なし						
(4)成績評価の方法	第5回、第8回、第11回、第14回に中間レポート（60%）を課す。第15回終了後、最終レポート（40%）を課す。得点率による評価基準は次のとおりとする。90%以上 秀, 89-80% 優, 79-70% 良, 69-60% 可, 59%以下 不可。						
(5)成績評価の基準	1)各領域の社会学の代表的な成果と理論的インプリケーションを読み解き、2)質的社会調査によるデータ収集と解釈の体系について整序することができ、3)各種の方法論が持つ得失を適切に識別し論じることができるかを評価する。十分な能力の涵養が認められれば「卓越している」と評価する。いずれかに卓越さが欠ける場合には「かなり上にある」、以上の項目の全てに妥当性が認められ、いずれかに秀でる点がある場合は「やや上にある」、総合的に妥当性が認められる場合は「その水準にある」と評価する。						
(6)事前事後学習の内容	事前学習においては、指定したテキストの読み込みと読書ノートの作成が必要である。事後学習においては、テキストにある課題・練習問題に取り組む必要がある。						
(7)履修上の注意							
(8)質問、相談への対応	オフィスアワー、もしくはメール（ymaeda076[at]shinshu-u.ac.jp）にて受け付ける。						
【教科書】	1) 岸政彦・石岡丈昇・丸山里美（2016）『質的社会調査の方法：他者の合理性の理解社会学』有斐閣。 2) 熊本博之（2021）『交差する辺野古』勁草書房。 3) 岸政彦（20213）『同化と他者化 ―戦後沖縄の本土就職者たち―』ナカニシヤ出版。 4) 西城戸誠・原田峻（2019）『避難と支援』新泉社。 5) 牧野智和（2012）『自己啓発の時代：「自己」の文化社会学的探究』勁草書房。						
【参考書】							